

地域アクションプラン進捗管理シート 総括表
《物部川地域：第3四半期》

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜物部川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数値的に見える形で示すこと〉
<p>1 南国市の園芸主幹品目シトウの再構築</p> <p>《南国市》</p> <p>全国一のシトウ産地維持のため関係機関と協力の上、コスト削減や品質改善などに取り組み、生産・流通・販売上の課題を解決する。</p> <p>【JA南国市、JA長岡、JA十市】</p>	<p>○3JA合同の生産者大会や現地検討会、消費宣伝などに取り組み、3JA間の生産技術及び販売レベルの高位平準化に努めた。</p> <p>○重油価格が高止まりするなか、省エネ型温水温風暖房機やヒートポンプの省エネ効果を検証した結果、約30%の重油削減ができた。</p> <p>○天敵の導入を推進した結果、H24園芸年度で94%と高い導入農家率となった。また、先進地調査や実証ほ結果から土着天敵活用の気運が高まり、導入農家が増加した(H23園芸年度5戸→H25園芸年度35戸)。ただし、新たな雑防除害虫の発生への対策が求められる。</p> <p>○研修事業を終了した研修生が新たに栽培を開始した。</p> <p>◆重油等生産コストの上昇や高齢化の進行などもあり、H19園芸年度の農家数130戸、栽培面積18.3haから、H25園芸年度は107戸、13.4haと減少しており後継者の育成が必要である。</p> <p>◆新たな省エネ機器や重油代替機器は導入コストがかかり普及しにくい現状がある。</p> <p>◆収量が伸び悩んでおり、低収要因の解明や増収技術の導入が必要である。</p> <p>◆新規栽培者については、経営安定に向けた支援が必要である。</p>	<p>・関係機関での検討情報共有(営農改善会6回)</p> <p>・各JAシトウ部会研修会(6回)</p> <p>・各JAシトウ部会反省会(4回)</p> <p>・各JAシトウ部会総会(3回)</p> <p>・3JA合同会議(2回)</p> <p>・出荷予測・栽培情報発信(4～6月、10月～)</p> <p>・新規栽培者に対する個別巡回及び情報収集(延82回)</p> <p>・経営分析結果の検討(7回)</p>
<p>2 還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化</p> <p>《南国市》</p> <p>還元水を活用した栽培技術を確立し、「還元野菜」としてのブランド化を図るとともに成分分析をし、機能性の検証を行う。</p> <p>【JA南国市出資生産法人株式会社南国スタイル、株式会社トリムエレクトリックマシナリー、高知大学】</p>	<p>《南国スタイルでは南国日本トリムの開発した「還元野菜整水器」によって生成された水を農業生産に活用するために、平成23年6月より葉菜類中心に試験栽培を行っている。整水器を使用することで生育促進効果など生産面で違いが現れており、平成25年度には高知県農業技術センターでピーマンの育苗試験、高知大学学部ではホウレンソウ・カイワレダイコンの発芽試験等を行った結果、生育促進効果が認められた。</p> <p>平成25年度は《南国スタイル》の施設整備に取り組んだ。</p> <p>実証栽培面においては、実証作物(コマツナ、バジル、スイカ、メロン、ホウレンソウ)5品目で成分分析を行った。還元水試験区に多少の優位性が認められたが、還元水由来についての継続的な検証が必要である。</p> <p>◆還元水を活用した栽培技術の確立 ◆品目毎の実証試験と分析、試験データの蓄積 ◆還元野菜の販路開拓</p>	<p>・実証栽培関係機関会議</p> <p>1四半期 3回 2四半期 3回 3四半期 1回</p>
<p>3 エメラルドメロンの販売力向上対策</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市夜須町のJA土佐香美園芸部メロン部会夜須支部部員が生産するエメラルドメロンは平成19年には「夜須のエメラルドメロン」として商標登録を行うなど、独自のブランド化に取り組んできた。平成21年度から23年度には、県産業振興推進総合支援事業を活用し、生産面において新技術の導入(日射比例かん水制御システム)、販売面では、それまでの県内や関西圏を中心とした販売から関東圏での販売拡大を目指して、新たな販売戦略の構築に努めてきた。</p> <p>過去3年間の取り組みをもとにさらなる生産拡大、関東圏での販売量拡大・知名度向上と合わせて全消費地でのブランド化に取り組む。</p> <p>【JA土佐香美】</p>	<p>○日射比例かん水制御システムの導入により、生産農家のかん水作業の省力化が図られるとともに、品質が向上し、可販果率が向上した。また、関東地区での百貨店等における試食宣伝やバイヤーの産地招聘など継続した販売促進活動が知名度を向上し出荷量が拡大してきている。</p> <p>○化学合成農薬の防除効果が低減し、黄化えそ病等虫媒伝染性ウイルス病が多発した。天敵実証により利用技術確立をすすめるとともに、部会全戸が1作目の作型に天敵を導入。抑制栽培での被害が軽減した。NO SAI香美引き受け被害株数、25年度は前年比86%減。</p> <p>◆関東地区への出荷量拡大 ◆冬季の草勢維持による果実肥大や品質向上 ◆天敵利用技術の更なる検証。 ◆高温期の天玉軽減対策。</p>	<p>・試食宣伝の実施(県内2回、東京都1回、愛知県2回、徳島県1回、兵庫県1回)。</p> <p>・市場等が高値での商談(5/17名古屋果実専門店組合、8/26大阪中野、10/9(株)フレスタ(広島)、10/27東京スマートベジフル、11/13東京シティ青果、11/16大阪本場仲卸組合、11/28名果コバヤン青果)。</p> <p>・県外市場への訪問商談(大阪中央青果、名果、岐阜中央青果、東京青果、東京シティ青果9/17～19)</p> <p>・品種に応じた梅雨、高温時期の温度、かん水、換気管理について現地検討会の実施(4/7 10名、6/11 10名、7/4 6名)。</p> <p>・天敵実証、アンケート結果報告、天敵活用勉強会の開催(12名、6/27)。</p> <p>・天敵実証ほ設置(半促成栽培(3作目)2カ所、抑制栽培(1カ所)。</p> <p>・抑制作型での天敵を利用した防除マニュアルを作成し、全戸に配布。</p> <p>・炭酸ガス施用農家の聞き取り調査の実施(4戸(2戸再調査))。</p>

<p>アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと></p>	<p>アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと></p>	<p>指標・目標</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・各JAシントウ部会研修会参加者数(68名) ・各JAシントウ部会反省会参加者数(58名) ・各JAシントウ部会総会参加者数(40名) ・出荷予測・栽培情報発信回数(28回) ・経営分析調査実施農家数(4戸) 	<p>・H26園芸年度販売額:10.0億円</p>	<p>【指標】シントウ販売額 H23園芸年度 10.4億円</p> <p>【目標(H27)】 10.8億円</p> <p>【H26到達点】 10.6億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>
		<p>【指標】栽培技術のマニュアル化ができた品目数 【目標(H27)】 10品目 【H26到達点】 0品目</p> <p>【指標】「還元野菜」の販売先数 【目標(H27)】 3箇所 【H26到達点】 1箇所(H25との合計2箇所)</p> <p>【指標】機能性に基づく差別化ができた品目数 【目標(H27)】 3品目 【H26到達点】 0品目</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・半促成栽培の天敵導入農家10戸。 ・抑制栽培の天敵導入農家数7戸。 ・炭酸ガス施用機導入農家数1戸増え、7戸が8戸に。 	<p>・H26園芸年度販売額 4.37億円</p>	<p>【指標】エメラルドメロン販売額 H23園芸年度 4.4億円</p> <p>【目標(H27)】 4.8億円</p> <p>【H26到達点】 4.8億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<物部川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果:○ 課題:◆)	インプット(投入) (講じた手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>4 ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」 《香南市、香美市》</p> <p>JA土佐香美は日本一のニラ産地であるが、近年は、個々の農家の規模拡大が進む一方で、高齢化により部会員数は減少している。こうした状況の中で、農業所得の向上や産地の維持・拡大を図るため、産地でまとまりをもって、環境保全型農業技術や新技術の導入に取り組むとともに、担い手対策や既存農家の規模拡大支援など、産地力の向上に向けた取り組みを総合的に進める。</p> <p>また、食の安全・安心への取り組みとあわせて、「人と環境に優しいニラ産地」としての土佐香美ブランドを構築し、市場での有利販売に取り組む。</p> <p>【JA土佐香美】</p>	<p>○JA土佐香美園芸部ニラ部会は平成20園芸年度に253戸・84.5haであったが、平成24園芸年度には234戸と主に中山間地域での高齢化による離農により減少傾向にあるが、面積は97.1haと増加傾向にある。これはU-Iターンによる新規就農や既存農家の規模拡大により減少をカバーしている。販売額は平成20園芸年度23.5億円から平成24園芸年度までは28.8億円と年々伸ばした。</p> <p>生産上の対策としては新技術や新品种の積極的な取り組みによる反収の増加、コスト削減を進め、経営の安定化を推し進めている。</p> <p>77戸の雇用や規模の意向調査と31戸の規模別販売額や所得、A品率、雇用の妥当性等の分析を実施した。</p> <p>◆平成25園芸年度は天候不順と春先からの出荷の集中で販売額は23.6億円と減少。 ◆夏場や厳寒期は出荷量や品質が不安定。 ◆新規就農者のバックアップ体制が不十分。 ◆調整作業労力の不足。 ◆さらなる土佐香美ブランドの構築。</p>	<p>・栽培管理向上のための実証ほ及び展示ほ設置(9カ所)。収量及び品質調査(6回)。 ・栽培管理、品質向上のための役員会(1回)、現地検討会(1回)、目積らし会(2回)を開催。 ・調整作業機のメーカー視察調査、実演会の開催、処理能力の調査(5回)。 ・作型改善個別指導(11回)。 ・新規栽培者リスト作成。 ・5年後、10年後の栽培意向調査の実施(223戸)。5年後までは、拡大及び縮小意向農家の聞き取り調査を実施。 ・新たな産地目標(50億円構想)を部会役員会で検討することの了承を得て、3役からの聞き取り、原案作成。地域営農検討委員会、香南市連絡会等での原案の検討。 ・新規栽培者リストの対象者に対し「グリーンカレッジ」を立ち上げた。</p>
<p>5 生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策 《香美市》</p> <p>香美市物部町を中心とした地域は、国内最大のユズの青果出荷(玉出し)産地であるが、生産者の高齢化などから生産の維持が困難になっている。このため、出荷作業時の労力軽減、農作業受委託の仕組みづくり、新たな担い手の掘り起こしを通じて作業者を確保し、産地の維持発展を図る。</p> <p>また、新たな需要を掘り起こし、選果場の機能を強化して販路を拡大する。</p> <p>【香美市、JA土佐香美】</p>	<p>○高齢化する生産農家の労働負担の軽減対策として、作業受託組織「ゆずもり」の事務局や料金体系を整備した。 ○全生産者を対象としたアンケート調査を実施し、樹種や樹齢の状況及び生産者の意向を把握した。 ○貯蔵性に優れるが果色が薄い系統(公文2号)を「袖月」と命名し、別販売した。 ○ものべゆず女性倶楽部の発足によって部会が活性化し、消費宣伝の体制が整った。 ○基盤整備促進事業によるせま地直し、スピードスプレヤーによる防除作業の省力化、全量選果に向けた集出荷体制の整備を盛り込んだ「産地構造改革計画」を策定した。 ○青玉、カラーリング、黄玉、冬至、貯蔵とリレー出荷し、防除作業を省力化する経営モデル(1.5ha規模)を作成した。 ○こうち農業確立総合支援事業を活用し、新規就農者にはリレー出荷するためのカラーリング施設を、五百蔵地区ではせま地直しのモデル園を、出荷を多様化するための小袋包装機を整備した。 ○小袋包装機では、「高知家」のシールを添付して販売した(12月～)。 ◆生産者の高齢化 ◆高齢化に対応した体制整備 ◆担い手の確保 ◆販路の拡大</p>	<p>・座談会を開催し(4/8～10、5回)、「産地構造改革計画」を紹介した。 ・3役会の前に産地協議会を開催することを提案した。 ・産地協議会の開催(5/9、6/3、7/1、8/18、10/3、5回) ・委員会の開催(5/13、6/16、7/15、8/18、9/16、5回) ・担い手への意向調査(6/16～18) ・青壮年部との話し合い(7/7) ・青壮年部との交流会(7/30) ・規模拡大先進地調査(7/14、参加者18名) ・スピードスプレヤーの事業化に向けた提言(7/28) ・スピードスプレヤーの事業化に向けた検討(8/27、9/2) ・新規就農者などを対象として勉強会の開催(7/18) ・「こうち農業確立総合支援事業」にスピードスプレヤーを申請した。 ・黄玉出荷検討会(10/22) ・全量機械選果の検討(11/16、18) ・大宮小学校での食育授業(11/27)</p>
<p>6 直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大 《南国市》</p> <p>国道195号通称「あけぼの街道」の全線開通を好機ととらえ、直販所・加工所を本線沿いに移転拡充して地域農産物の販売や地域資源を活用した加工品の開発・販売を行い、地域農業者の所得向上を図るとともに、隣接する「ながおか温泉」への誘客を促進し、交流人口の拡大につなげる。</p> <p>【JA長岡】</p>	<p>○農用地区域除外手続き完了(飲食店・直販所)(H24.9) ○飲食店部分の農地法転用許可、都市計画法開発許可完了(H25.2) ○県産業振興推進総合支援事業採択申請(H25.2) ○補助金審査会(H25.3.18) ○飲食店建築工事完了(H25.11.15) ○直販所建築工事完了(H26.2.28) ○なの市・なのカフェのオープン(H26.4.2) ◆独自性を持たせた競争力のある商品開発 ◆併設する「ながおか温泉」との連携 ◆品揃えを豊富にするため新規会員募集による会員の増</p>	<p>・平成26年度高知県緊急雇用創出臨時特別基金事業(起業支援型地域雇用創造事業) 13,738千円(H26.6.12概算払・9,158千円) ・南国市中小企業振興事業補助金400千円(事業費) ・なの工房運営会議 28回</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・機械による調整作業を3戸が体験できた。 ・作型改善農家9戸の作型案を提案した。 ・「グリーンカレッジ」で基本的な栽培講習を2回行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H26園芸年度販売額 24.1億円 ・調整作業機を2戸が導入。 ・新規就農者同士の連携ができた。 	<p>【指標】ニラ販売額 H23園芸年度28.4億円</p> <p>【目標(H27)】30.0億円</p> <p>【H26到達点】29.0億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・座談会(89名参加) ・産地協議会への3役の出席率が向上した。 ・3役が部会の将来像について委員会で提案することができた。 ・黄玉出荷検討会(参加者120名) ・大宮小学校での食育授業(参加者40名) ・「こうち農業確立総合支援事業」でスピードスプレーを1台導入することになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H26園芸年度販売額 4.3億円 ・ものべゆず女性倶楽部は食育事業等を通じて、消費宣伝を担っているという自覚ができた。 	<p>【指標】ユズ販売額 H23園芸年度 4.3億円</p> <p>【目標(H27)】5億円</p> <p>【H26到達点】4.5億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店等スタッフ12名、経理等管理部門2名 計14名の雇用 		<p>【指標】直販所等の売上額(H22:33,000千円)</p> <p>【目標(H27)】100,000千円</p> <p>【H26到達点】100,000千円</p> <p>【指標】直販所等の雇用者数(H22:3人)</p> <p>【目標(H27)】8人</p> <p>【H26到達点】12人</p> <p>【指標】ながおか温泉入場者数(H22:16万人)</p> <p>【目標(H27)】19万人</p> <p>【H26到達点】16万人</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜物部川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 （これまでの主な成果：○ 課題：◆）	インプット（投入） （講じた手立でが数量的に見える形で示すこと）
<p>7 地域農産物を活用した直販所「ひかり市」の施設拡充</p> <p>【南国市】</p> <p>農産物の価格低迷と資材等の高騰により大幅に減少している農家所得の向上のため、直販所を移転改装するとともに機能拡充を図り、地元農産物を活用した商品の販売と顧客獲得に取り組む。</p> <p>【JA十市】</p>	<p>○県産業振興推進総合支援事業費補助金を活用して、直販所「ひかり市」を移転・拡充した。（事業期間H24.11.29～H25.3.30、直販所移転改修面積133.87㎡（売場面積94.50㎡））</p> <p>○直販所会員数が25名から93名に増大した（H26.3現在）。</p> <p>○新店舗名「ことおち市」としてH25.3.30オープンした。</p> <p>◆会員数を当初目標100名に向けて新規募集を行う必要がある。</p> <p>◆米粉パン事業について、技術の向上や商品の磨き上げが必要である。</p> <p>◆独自性のある看板商品の開発が必要である。</p>	<p>・平成26年度高知県緊急雇用創出臨時特例基金事業（起業支援型地域雇用創造事業）1,903千円</p> <p>・地域特産品等開発事業 200千円</p>
<p>8 加工品販売による夜須地域の活性化</p> <p>【香南市】</p> <p>地場産物を活かした加工品開発・販売を行い、生産農家の所得向上につなげる。</p> <p>【協同組合やすらぎ市】</p>	<p>○組合内に加工組織（製造部）を結成した。</p> <p>○事務局（加工担当者）を配置して試作を行い、商品候補3品を選定した。</p> <p>○産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し、加工施設を整備した。</p> <p>○地元加工業者と連携し、新たな加工品の試作を行った。</p> <p>○ホームページ活用の優良事例の情報収集を行った。</p> <p>◆新たな加工施設で製造する商品の安定生産と主力商品の定着</p> <p>◆加工商品数の増加</p> <p>◆ホームページの情報発信ツールとしての活用強化</p>	<p>・主力商品生産販売計画検討（5回）</p> <p>・店頭の商品PR方法の研究、改善（1回）</p> <p>・主力商品のレシピの確認・修正（5回）</p> <p>・HPの情報発信ツールとしての活用方法の研究（2回）</p> <p>・加工業者との新商品開発検討（2回）</p>
<p>9 地産地消・食育の推進</p> <p>【南国市】</p> <p>これまで先進的な地産地消の活動を行ってきたが、学校給食への野菜の供給割合は10%台であり、これからも農業生産法人の作る重宝野菜の季節的利用、南国産野菜の生産情報の提供など地産地消の推進のため、組織の連携強化等を図っていく。あわせて、病院や介護施設など業務筋への販売、配送拡大に努める。</p> <p>また、生産者と消費者をつなぐ場づくりとしてオープンした「農家レストランまほろば畑」についても、経営の安定化を図り、地産地消を推進していく。さらに、地域食材を活用した料理や商品の開発及び販売を進めるためにベーカリーを併設した農園レストランを整備・運営することにより、地域の農家所得の向上と雇用の創出を図る。</p> <p>【JA南国市出資生産法人株式会社南国スタイル、JA南国市、JA長岡、JA十市、南国市地産地消推進協議会、農家レストランまほろば畑、南国市、株式会社ナイフアンドフォークカンパニー】</p>	<p>○市内小学校への給食用食材の配送システムが整ったことにより、地元野菜の供給割合は16.3%を達成した。また、業務筋への配送先は34事業体となった。（H21～25）</p> <p>○地産地消フェア（H21）や地産地消推進協議会総会を通じて推進体制の強化を行った。（H21～25）</p> <p>○生産者と消費者をつなぐ場づくりとして道の駅南国風良里に毎火曜日農家レストランをオープンした。5グループによる輪番制で、来店者の平均は180人を超える。（H22～H25、143回開催、来客数26,370人）</p> <p>◆学校給食における学校給食会（教育委員会）と農林水産課サイドの連携</p> <p>◆配送業務を法人の一事業として成り立たせるための販路拡大</p> <p>◆まほろば畑のコンセプトの一つ「長く続ける」ための課題解決</p> <p>◆新メニュー開発と農産物PR方法の習得</p>	<p>・高知県産業振興推進ふるさと雇用事業（2名・6,431千円）</p> <p>・南国市JA出資型農業生産法人育成補助金（5,000千円）</p> <p>・農家レストランまほろば畑、業務改善会（チーム会）実施 6回</p> <p>・まほろば畑役員会の実施 6回</p> <p>・農家レストランまほろば畑総会 1回</p> <p>・第8回産業振興推進総合支援事業費補助金審査会にて「地域の食材をフル活用した農園レストランアンドベーカリー」が承認された。（12/19）総事業費250,201千円、県補助金振替額50,000千円</p>

<p>アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと></p>	<p>アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと></p>	<p>指標・目標</p>
<p>・運営責任者(店長1名)の雇用</p>		<p>【指標】直販所の営業日数(H22:週2日) 【目標(H27)】週6日 【H26到達点】週6日</p> <p>【指標】直販所への出店者数(H22:11名) 【目標(H27)】100名 【H26到達点】100名</p> <p>【指標】直販所売上額(H22:4,325千円) 【目標(H27)】50,000千円 【H26到達点】34,500千円</p> <p>【指標】直販所スタッフ雇用(新規) 【目標(H27)】3名 【H26到達点】9名</p>
<p>・主力商品生産販売計画検討参加者数(24人) ・加工業者と連携した新商品販売(3品)</p>	<p>・来店者数 4～11月 <u>142,010人(前年比98%)</u></p> <p>・加工品販売額(11月末時点) <u>65,554,671円</u> (H26目標到達点に対する進捗率 <u>68.2%</u>) うち、キッチンマーメイド <u>6,800,935円</u></p>	<p>【指標】加工品販売額 H22:7,000万円</p> <p>【目標(H27)】 1億円</p> <p>【H26到達点】 9,600万円</p>
<p>・農家レストランまほろば畑の開店日数 28日(4/1～12/16) ※8/5、10/14:臨時休業</p>	<p>・学校給食への供給割合 <u>17.35%(11月末)</u></p> <p>・株式会社南国スタイル 業務筋への供給 新規供給先 2事業体 計20事業体</p> <p>・農家レストラン4/1～12/16の来店者数 <u>5,151人(平均184人/回)</u></p>	<p>【指標】学校給食における地元野菜の供給割合(H22:10.7%)金額ベース 【目標(H27)】15% 【H26到達点】16%</p> <p>【指標】業務筋への供給(H22:6事業体) 【目標(H27)】15事業体 【H26到達点】18事業体</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜物部川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈請じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>10 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組</p> <p>〔南国市〕</p> <p>大河ドラマ「龍馬伝」を契機に再燃する龍馬ブームを好機と捉え、豊富な園芸野菜を使った「ご当地グルメ」として、龍馬に関する逸話や先達の地等の歴史的背景を活用した「シャモ鍋」を新たに創出し、「地産「菜」消」による交流人口拡大を図るとともに効果的なメディア露出などによる情報発信を強化する。</p> <p>また、シャモの飼育・ブランド化を通じて休耕田等を活用した飼料米栽培、さらには葉物野菜の出荷残渣の飼料化や鶏糞の土壌還元等の可能性を検討し、新たな農業手法を検討する。</p> <p>流通の少ないシャモ肉は少数生産であっても高級食材として取引されるため、飼育環境のトレーサビリティ等による高付加価値化を図り、「ブランド鶏肉」としての外販戦略を展開していく。</p> <p>【企業組合ごめんシャモ研究会、南国市商工会、南国市】</p>	<p>○地域内にある資源(歴史+野菜)を融合させた「シャモ鍋」の創出及び県内外への情報発信(H21～22)</p> <p>○「シャモ鍋社中」によるシャモ料理提供。(H22～)</p> <p>・シャモ鍋、シャモバーガー、シャモスキヤキ等、シャモ料理を創出し、南国市外へのPRを行うこと、南国市へ来てもらってお金を落としてもらう体制【地産「菜」消】(シャモの生産～料理として提供)を整備し継続中である。</p> <p>・2013年版のシャモ鍋マップや、チラシの作成等も行った。</p> <p>○地産外販のための宣伝活動(H25)</p> <p>・JAF会員誌への広報掲載や、大阪商談会「土佐の宴」・関東高知県人会への参加等、広報を兼ねた外販活動を行った。</p> <p>・「地域活性化たからいち」での最優秀GP、「農林水産省 地場もも国民大賞」銀賞受賞など様々なイベント等に参加し、外販・広報活動を行った。</p> <p>○加工品の開発(H24)⇒シャモ鍋セットが完成。販売開始。</p> <p>○加工品の開発(H25)⇒シャモスキヤキセットが完成。販売開始。</p> <p>○HPの完成(H24)⇒シャモ鍋セットのネット販売の開始。</p> <p>○シャモのブランド化(H22～)</p> <p>・シャモ肉の高品質かつ均一化を図るための飼育マニュアルの作成に向け、H23年度から高知農業高校の協力を得て飼育データの収集・蓄積を行った。</p> <p>また、安心して安全な肉生産のためトレーサビリティの確保にも取り組んだ。</p> <p>○県内へのシャモの広報</p> <p>・RKCの取材や知事行脚、市内小学校でのシャモ研の活動についての講演等、シャモをより知ってもらうための活動を行った。</p> <p>○アドバイザーとの課題相談を行い、現在の経営状態の問題点を洗い出した。</p> <p>○産業振興推進総合支援事業を用いて、農業高校に孵卵器・貯卵器を設置した。</p> <p>◆生産体制の強化</p> <p>◆シャモ肉の高品質かつ均一化</p> <p>◆安定供給量(ロット)の確保</p> <p>◆販路開拓</p> <p>◆組織の経営強化</p>	<p>・シャモを突破口とする中心市街地賑わい創出事業(高知県産業振興推進ふるさと雇用事業)(1名・3,062千円)</p>
<p>11 民有林における素材の増産</p> <p>〔物部川地域全域〕</p> <p>森林所有者の所得の向上と、山村地域の振興を図るため、引き続き集約化施策を推進し、森の工場の拡大と素材の増産に取り組む。</p> <p>【各森林組合、林業事業者等】</p>	<p>○集約化団地の拡大に向けて、森林所有者への説明会を開催し、集約化施策の周知に努めた結果、25年度には森の工場の面積が目標値を大きく上回る結果となった。</p> <p>また、事業地となる森の工場の拡大と併せ、国庫補助事業を活用し、作業道開設や高性能林業機械の導入を図り、搬出間伐による素材の増産に向けて基盤整備を行ってきた。</p> <p>◆森の工場における森林施業の同意率のアップ</p> <p>◆不在村地主の増加、森林所有者の高齢化や相続等による境界確認、境界確定の困難化</p> <p>◆放置林の解消</p> <p>◆保育間伐の推進</p> <p>◆林業労働力の確保</p>	<p>・平成26年度の素材増産のための森林整備事業について、市町村、森林組合及び林業事業者への説明会を実施(4回)</p> <p>・森の工場及び森林経営計画の作成を支援</p>
<p>12 木質バイオマスの活用に向けての取組</p> <p>〔物部川地域全域〕</p> <p>需用者開発について、三市が連携して取り組んだ結果、一定の進展があった。今後は排出量取引などを活用した需用者の負担軽減の仕組みづくりを行う。</p> <p>また、木質バイオマス燃料の安定供給の仕組みづくりについて検討する。</p> <p>【南国市、香南市、香美市、JA南国市、JA十市、JA長岡、JA土佐香美】</p>	<p>○三市が連携して、木質バイオマスの利用についての検討及び木質燃料の需用者開発を行い、国の制度を活用して、需用者の負担を軽減する形で園芸用ボイラー22基の導入が実現した。</p> <p>◆需用者の負担軽減</p> <p>◆木質バイオマス燃料の安定供給</p>	<p>・南国市、3JAと森林・林業再生基盤づくり交付金を活用した木質資源利用促進事業(ペレットボイラー導入)に向けた打ち合わせを行った。(1回)</p> <p>・木質資源利用促進事業(4JA共同灰処理)の打ち合わせを行った。(1回)</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	指標・目標
<p>・土佐の食1グランプリにシャモラーメンで出店し、2位を獲得(4/5、4/6)</p> <p>・高知農業高校での貯・卵業務開始(4/8)</p>	<p>・シャモ肉販売 (12月末時点 2,567.4kg)</p> <p>・シャモスキヤキセット販売 (12月末時点販売数 800)</p> <p>・シャモ鍋セット販売 (12月末時点販売数 290)</p> <p>・シャモ肉取引飲食店業者数 (12月末時点南国市内19店舗)</p>	<p>【指標】ごめんケンカシャモ提供店舗数 (南国市内) (H23 15店舗) 【目標(H27)】18店舗 【H26到達点】20店舗</p> <p>【指標】シャモ目標飼育羽数 (H23 2,000羽) 【目標(H27)】3,000羽 【H26到達点】3,000羽</p> <p>【指標】ごめんケンカシャモを使った加工品数 (H23 0) 【目標(H27)】3品 【H26到達点】1品(H24、25との合計3品)</p>
<p>・素材増産のために必要な森林整備事業に係る情報共有が図れた</p> <p>・林業事業体が森の工場及び森林経営計画を新規に策定した</p> <p>・素材生産のための森林作業道を3路線2,500m開設</p>	<p>・森の工場整備済面積 18,286ha</p> <p>・素材生産量 25,187m³(11月末)</p>	<p>【指標】 「森の工場」整備済面積 H22: 9,400ha 【目標(H27)】 19,000ha 【H26到達点】 18,500ha</p> <p>【指標】 素材生産量(民有林のみ) H22: 26,053m³ 【目標(H27)】 47,500m³ 【H26到達点】 37,600m³</p>
		<p>【指標】 ペレット利用量 H23: 1,230t 排出量取引 H23:-</p> <p>【目標(H27)】 ペレット利用量 1,230t 排出量取引 1,500t-co₂</p> <p>【H26到達点】 ペレット利用量 630t 排出量取引 -</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜物部川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈填じた手立てが数値的に見える形で示すこと〉
<p>13 シイラ等の加工商材活用</p> <p>《香南市》</p> <p>シイラ等の加工による浜値向上と付加価値増加を通じて、漁業者の所得の向上を図る。</p> <p>【高知県漁協手結支所】</p>	<p>○地域の雇用確保(8名)</p> <p>○浜値の維持・底上げ (支所が最低価格30円/kgで買い支え)</p> <p>○H25加工品販売金額:1,337万円(シイラ加工品:1,112万円、シイラ以外加工品225万円)</p> <p>○H25シイラ原魚購入数量:73.7トン</p> <p>◆原魚の安定確保</p> <p>◆更なる衛生管理の向上</p> <p>◆新商品の開発</p> <p>◆新たな販路開拓</p>	<p>・取引先との定期的な情報交換(1~2回/週)</p> <p>・関係者協議及び情報共有(4回)</p>
<p>14 地域の特産品づくり～農産物加工への取組～</p> <p>《南国市》</p> <p>特産品づくりについては、これまでも取組みを行い様々な特産品が開発されてきた。今後、一部の企業・団体でなく、特産品づくりに取り組む組織・グループを育成し、市全体に広めるとともに、プロダクトアウト型でなく、顧客ニーズも把握しながら、地域資源を活かした特産品づくりを促進する。また、できあがった特産品の売り込みを通じて地域をPRし、地域の魅力向上を図る。</p> <p>【なんこく空の駅推進協議会、西島園芸団地など既存企業、組織、グループ、新しい組織、グループ、JA南国市出資生産法人株式会社南国スタイル、南国市商工会、南国市観光協会】</p>	<p>○平成25年7月より厚生労働省「実践型地域雇用創造推進事業」を受託し、南国市地域雇用創出推進協議会が再活動開始</p> <p>①加工所を整備するとともにネギのカット、タマネギのペースト、びわ茶のティパック、たまねぎまるごとスープなどの試作を行った。</p> <p>②大篠小学校・ひろめ市場などの協力を得て、商品化に向けたコンテストを実施した。</p> <p>③「ごめんケンカシャモ混ぜご飯の素」を試作し、ニーズ調査を行った。</p> <p>○地域特産品商品開発事業を行うための市単独補助金「地域特産品等研究開発事業」で5件を採択した。</p> <p>◆特産品づくりに取り組むプレーヤーの発掘・育成</p> <p>◆魅力ある商品づくり</p>	<p>・実践型地域雇用創造推進事業 事業推進員3名(事務局長1人含む)、実践支援員7名 計10名</p> <p>・地域特産品等研究開発事業 5事業採択</p>
<p>15 香美市ブランドの確立・特産品づくり</p> <p>《香美市》</p> <p>香美市ブランドの確立、特産品づくりを行うことを通じて、働く場の確保と所得の向上を図る。</p> <p>【香美市観光協会、食品加工グループ】</p>	<p>○平成21年度から香美市地域雇用創造協議会等が中心となり、新商品の開発や特産品の県内外への販売促進、ショッピングサイトの開設等を行った。これらの活動を通じて注目を集める商品も出始め、奥ものべじばばあんぜん会の「塩の道マーメイドしおゆず」が、平成23年度の土佐のいい物・おいしい物発見コンクールで優秀賞を受賞した。</p> <p>○H24年度は「しおゆずビール」「しおゆずおかず」の2品を新商品として発売し、商品を充実させている。また、奥ものべじばばあんぜん会のセット商品「平家のかおり」商品化も決定された。</p> <p>○べふ峡温泉や香美市地域雇用創造協議会が平成21年度から取り組んできたシカ肉の商品開発は、平成23年度までに9品目の商品ができた。平成23年5月に開催された土佐の食1グランプリでのシカドッグの優勝を機に、シカ肉の加工品が注目を集め、販路拡大につながった。</p> <p>◆シカ肉加工品の需要拡大に伴うシカ肉の安定供給体制の確立</p>	<p>・香美市観光協会運営事業費補助金 11,000千円</p> <p>・別府森林総合利用施設指定管理料(べふ峡温泉、キャンプ場) 19,000千円</p> <p>・情報発信交流施設指定管理料(香美市インフォメーション)4,400千円</p> <p>・特産品の販売及びPR</p>
<p>16 「ごめん」の賑わいづくり～ごめんの活性化～</p> <p>《南国市》</p> <p>かつては南国市の中核的存在であった「ごめん商店街」に再び賑わいを取り戻せるよう取組を行っている。地元商店主の大半が高齢化し、後継者がいないために主体的な取組が生まれにくい状況だが、これまでの取組の中でできたやなせたかしロードや高知農業高校のアンテナショップ、ごめんの軽トラ市などを活かし、地元の意識醸成を図りつつ、賑わい拠点の創出や運営管理できる組織づくりにより、まず人が訪れる仕組みづくりを図っていく。</p> <p>【南国市商工会、南国市商工会後免支部、ごめんまちづくり委員会、地産地消ごめんの軽トラ市実行委員会、企業組合ごめんケンカシャモ研究会、ごめん生姜アメ研究会、後免町公民館建設推進部会、高知農業高校】</p>	<p>○ごめん・よってご広場企画運営員、ごめん町の集落支援員を配置し、地域の連携・協力のもと、イベントを開催するとともに、後免町公民館建設推進部会のなかで、住民間の話を活性化させ、後免防災コミュニティーセンターの建設に向けて協議した。</p> <p>○事業主体となり、四国経済産業局の「中小商業活力向上事業」を活用し整備した「ごめん・よってご広場」を拠点とし、賑わい創出のための地域・関係団体とともに協力・連携し、各種イベントを企画開催した。</p> <p>○地産地消の軽トラ市、「ハガキでごめんなさいコンクール(応募総数1,418通)」、「ごめんキャンドルナイト」「ごめん祭」「高知農業高校アンテナショップ」「ごめん・よってご文化祭」などを開催し、事業としては活発に行っている。</p> <p>◆「ごめん・よってご広場」の企画運営は、地域及び関係団体とともにごめん町イベント実行委員会を設立させ、定期的に開催しているが、「後免町活性化」の実施主体となるプレーヤー(組織)をどうするかが課題となっている。</p>	<p>・後免町商店街活性化事業(ごめん・よってご広場の運営費:総事業費2,080,620円 内市補助1,040,000円)</p> <p>・集落支援員(1人)(総事業費1,632,000円)</p> <p>・軽トラ市開催(市補助:600,000円、年3回開催予定)</p> <p>・よってご広場イベント開催(2回)</p> <p>・南国市中小企業振興補助金:600,000円(総事業費1,200,000円)をよってご広場運営費として南国市商工会へ交付</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	指標・目標
・加工作業従事者8名をパート雇用		【指標】シイラ加工事業の販売金額 H22:2,571千円 衛生管理の認証 【目標(H27)】 700万円 県版HACCPの取得 【H26到達点】 700万円
・ももアイスパッケージの完成	・ももアイス販売開始(9/15)	【指標】地域産品を活用した新しい組織・グループ設立数(新規) 【目標(H27)】 10組織・団体 【H26到達点】 8組織・団体 【指標】開発商品売上額 (H22:656万円(28品目)) 【目標(H27)】 1,000万円(40品目) 【H26到達点】 3,000万円(24品目)
・特産品販売出店回数:28回	・既存商品の新規市場の開拓ができた。 ・特産品のPRができた。	【指標】開発商品売上額 (H22:4,808千円(10品目)) 【目標(H27)】 6,300千円(20品目) 【H26到達点】 7,000千円(16品目)
・ごめんまち体育祭(6/29) 入込客数 400人 ・軽トラ市(6/8) 入込客数 1,600人 ・ごめんの月見(9/6)入込客数 280人 ・よってこ広場ワークショップ 入込客数 185人 ・骨コツフェスタ(10/26)入込客数 130人 ・キャンドルライブ(12/13)入込客数 80人 ・軽トラ市(12/14)入込客数 1300人		【指標】賑わい創出のための拠点施設整備(H23:0件) 【目標(H27)】1件 【H26到達点】1件 【指標】空き店舗活用(H23:0件) 【目標(H27)】2件 【H26到達点】1件 【指標】地元・地域を巻き込んだ実際に活動できる組織の設立(H23:0組織) 【目標(H27)】1組織 【H26到達点】1組織 【指標】ごめん商店街の歩行者通行量 (H23:ばいきんまん前 12人/h)、(ジャムおじさん前 23人/h) 【目標(H27)】 ばいきんまん前20人/h ジャムおじさん前40人/h 【H26到達点】 ばいきんまん前15人/h ジャムおじさん前27人/h

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜物部川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立だが数量的に見える形で示すこと〉
<p>17 香南市の地場産品販売促進</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市の地場産品を事業者が一体となり販売活動を行い売り出すことで、香南市の知名度の向上や地域の農業者、商業者等の所得の向上を図る。</p> <p>【香南市観光協会、香南市内の事業者】</p>	<p>○香南市内の事業者の商品をカタログやネットで販売することにより、事業者の商品開発やメニュー開発意欲につながった(カタログ販売:H22～25、ネット販売:H23～25)</p> <p>○ふるさと寄付金の記念品等に採用されている</p> <p>○各種イベントに出店し販売活動を行っている</p> <p>◆商品及び販売機会の増加</p> <p>◆商品販売体制の継続</p>	<p>・高知県産業振興推進ふるさと雇用事業(市民と地域資源の総力を結集したビジネス支援事業)→2名雇用(継続)</p>
<p>18 香南市の商業振興への取組</p> <p>《香南市》</p> <p>コミュニティガイド事業で作成・配布した「生活情報ガイド」や「コミュニティイベント」の継続により、地域の消費者に対し生活の利便性を提供するとともに、商業者のまとまりを再構築し、商業者が一体となって取り組みを行い、地域内での顧客の増加、さらには地域外への商圏拡大を目指す。</p> <p>【香南市商工会、香南市内の商業者】</p>	<p>○「お店紹介BOOK」が新規顧客に繋がりはじめ、H23年度の改訂版発行時には、商工会に対し掲載希望が寄せられた(お店紹介BOOK「香南市の・おいしい・たのしい・うれしい」の発刊 H21、H23)</p> <p>○コミュニティイベント「香南百貨店おひろめ市」の取組(H22～25)</p> <p>○新たなポイントカード制度の実施に向けて検討中。ポイントカード事業導入等について(消費者及び商店者対象)のアンケートを実施(H25)</p> <p>◆来店客の増加</p>	<p>・香南市とのポイントカードシステムのポイントについての協議(1回)</p> <p>・香南市地域活性化委員会の開催(3回)</p>
<p>19 地場産業(土佐打刃物、フライフ)の振興</p> <p>《香美市》</p> <p>海外での展開も視野に入れた新商品の開発や販路の開拓のほか、昔ながらの技術や文化の継承を図るため、次世代を担う後継者の育成にも取り組む。</p> <p>【高知県土佐刃物連合協同組合、香美市商工会、フライフ製造業者、香美市観光協会】</p>	<p>○香美市地域雇用創造協議会が中心となり、販売促進や商品開発に関する取り組みを行った。</p> <p>○市内に2箇所のアンテナショップが開設され、「ふらっと中町」での土佐打刃物の展示販売や「龍河在る里」での土佐打刃物鍛造体験を体験観光メニューとして販売した。</p> <p>○土佐打刃物製造業の後継者育成は、土佐打刃物後継者育成対策検討会を発足し、対応策の検討を行った。</p> <p>○H24年度に、土佐刃物連合協同組合から県・香美市・南国市に「土佐打刃物製造業の後継者育成に向けたモデルプラン」の説明を行った。今後、事業化に向けて検討していく。</p> <p>○高知新港に寄港する大型客船の乗員乗客向け物販ブースにてくじらナイフの販売を開始した。</p> <p>◆地場産業の維持、後継者育成が課題である。</p>	<p>・香美市観光協会運営事業費補助金 11,000千円</p> <p>・土佐打刃物後継者育成助成事業 600千円</p> <p>・商工会商工業振興対策事業補助金 600千円</p> <p>・こうち産業振興基金事業(伝統的工芸品等支援事業費助成金) 308千円</p> <p>・「伝統的工芸品産業等後継者育成対策事業」説明会の開催</p>
<p>20 観光事業から観光産業へ～観光産業の振興～</p> <p>《南国市》</p> <p>交通の要衝という恵まれた立地環境を活かし、地域内の観光資源をつなぎ、地域が誇る史跡資源(長宗我部)や農業などの地域資源を活かして観光を産業として、成り立たせる仕組みを構築していく。</p> <p>【南国市観光協会、市内各観光に関わる企業・団体・グループ】</p>	<p>○観光コーディネート組織の設立(H21～23)</p> <p>・南国市観光協会がH24年度から観光コーディネート組織として活動しているよう、事務局も含めて行政から独立した組織とする準備作業を行った。</p> <p>○観光ガイド組織の設立(H21～23)</p> <p>○観光ガイド組織「南国市観光案内人の会」はH23に設立された。</p> <p>○H24より観光協会に専任スタッフを配置し、企画力、機動力が大幅に向上し、観光商品の開発やブラッシュアップなどが進んだ。</p> <p>○H25年度より、観光客や会員の多様なニーズに迅速かつ臨機応変に対応するため、観光協会を一般社団法人化した。</p> <p>◆観光協会の組織及び体制の強化(「会員の増」、「財政基盤づくり」等)</p> <p>◆「南国市観光案内人の会」のガイドとしてのスキルアップ。</p> <p>◆継続的な観光資源のブラッシュアップ</p> <p>・史跡・歴史的資源を文化資源としてだけでなく観光資源として磨き上げること。</p>	<p>・目指せ南国ブランド農商工連携拠点づくり事業 総事業費 13,882千円</p> <p>・長宗我部フェス補助金 1,000千円</p> <p>・岡豊山さくらまつり・食1GP補助金 1,800千円</p> <p>・南国市観光協会補助金 2,100千円</p> <p>・ごめん祭プロジェクト補助金 1,000千円</p> <p>・土佐のまほろば祭り運営事業費補助金 4,000千円</p> <p>・南国市観光拠点等整備事業費補助金 (西島ドライミスト設備設置事業 総事業費3,200千円 内市補助 1,600千円)</p>
<p>21 体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市の海と山と歴史などの地域資源を活用した体験観光等を推進し、交流人口の増大を図る。</p> <p>【香南市観光協会、地域の体験メニュー等提供団体】</p>	<p>○香南市観光協会が一般社団法人化し、旅行業第3種の登録を行い、旅行商品の企画から販売までの体制が整った(H22年度)</p> <p>○旅行商品化に必要な観光情報の一元把握(H21～25年度)</p> <p>○旅行商品の造成と販売(H21～25年度)</p> <p>○地域情報の発信(H21～25年度)</p> <p>◆旅行商品の企画・販売の継続</p> <p>◆地域素材を使った旅行企画の開発と多様化</p> <p>◆エージェン特に対するプロモーション</p>	<p>・高知県産業振興推進ふるさと雇用事業(地域まるごと旅行商品の開発販売及びブランドオペレーター機能構築事業)→1名雇用(継続)</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・土佐香南まるごと旨市カタログ 2014年春夏カタログ発行(H26.4.1～9.30) 2014年秋冬カタログ発行(H26.10.1～11.30) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2014春夏カタログ売上実績(199件、1,703千円) ・2014秋冬カタログ売上実績(80件、716千円) 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】参加事業者数 H23:29事業者 【目標(H27)】35事業者 【H26到達点】32事業者
		<ul style="list-style-type: none"> 【指標】商業者数 H23 873店 【目標(H27)】現状維持 【H26到達点】現状維持
<ul style="list-style-type: none"> ・海外よりくじらナイフ150本の注文があった。 ・「伝統的工芸品産業等後継者育成対策事業」の説明会への参加:事業者等4名 ・フラフ染め体験(10/4、11/26小学生36名参加) ・海外よりくじらナイフ120本の追加注文があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の海外への販促が期待される。 ・フラフ染め体験を通じて、小学生に地場産業への理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】刃物製造業者数 (H23年12月末現在36事業者) (H26年3月末現在35事業者) 【目標(H27)】現状維持 【H26到達点】現状維持
<ul style="list-style-type: none"> ・岡豊山さくらまつり・土佐の食1グランプリ(4/5,6) 入込客数10,000人 ・第2回ごめん祭(5/11)入込客数 2,000人 ・長宗我部フェス(5/17)入込客数 3,250人 ・西島園芸団地ドライミスト設備設置 ・第2回スウィーツグランプリ(2/22～6/5) 参加店舗48店、応募者477名 ・婚活イベント(11/2) 49人参加 ・長宗我部元親ラリー4チェックポイント探索ツアー(11/29、12/20)60人参加 		<ul style="list-style-type: none"> 【指標】観光協会の会員数(H23:77) 【目標(H27)】150 【H26到達点】85 【指標】一般社団法人数(観光協会の法人化) 【目標(H27)】1組織 【H26到達点】1組織 【指標】主要4観光施設※の入り込み数 (H21:483,000人) 【目標(H27)】500,000人 【H26到達点】524,000人 ※県立歴史民俗資料館、西島園芸団地、パシフィックゴルフ(以上、茶場者)、道の駅南国風良里(ショップ、直販所)のレジ通過人数
<ul style="list-style-type: none"> ・長谷寺座禅ツアー(当初計画4回、追加2回)を企画・募集 ・第3回土佐塩の道トレイルランニングレース(10/5開催)を企画・開始 ・サンライズ・サンセットシーカヤックモニターツアー(延べ6回)を企画・開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・長谷寺座禅ツアー(募集6回うち1回中止、参加者延べ99名) ・第3回土佐塩の道トレイルランニングレース(募集200名、申込179名、出走165名) ・サンライズ・サンセットシーカヤックモニターツアー(2種×3回、参加者延べ63名) 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】年間プロモーション活動 【目標(H27)】年6回以上(年のべ50社以上) 【H26到達点】年6回以上(年のべ50社以上) 【指標】主催旅行の開催 【目標(H27)】10コース・募集200人以上 【H26到達点】10コース・募集200人以上

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜物部川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>22 「森の駅」を中心とした体験型観光の推進</p> <p>《香美市》</p> <p>べふ峡温泉を「森の駅」と位置づけ、体験型観光の拠点施設として森林を活用した観光を推進する。また、体験プログラムの実施による地域住民との交流や地域の活性化につながる香美市の新たな産業としての観光の育成を図る。</p> <p>【香美市、香美市観光協会、地域内の観光施設及び体験型観光メニュー等の提供団体】</p>	<p>○香美市地域雇用創造協議会において、H21～23年度に毎年度、対象を変えてモニターツアーを実施し、香美市の観光素材、体験観光メニューのモニター評価を受け、改善すべき点の把握等を行った。また、モニターツアーの開催を通じて一般旅行商品の造成へとつながった。</p> <p>○べふ峡温泉林間広場の基盤整備、龍河洞の洞内照明LED化、ほっと平山の案内板の設置などの環境整備も行った。これによりイベントなどへの活用が期待できる。</p> <p>◆香美市観光協会とべふ峡温泉の体制を確立し、べふ峡温泉(森の駅)の再建を行うことが急務である。</p> <p>◆新たな体験プログラムの造成や既存メニューの洗い直しをし、参加者の受け入れ体制のシステム構築を行う。</p>	<p>・香美市観光協会運営事業費補助金 11,000千円</p> <p>・別府森林総合利用施設管理委託料 19,000千円</p> <p>・情報発信交流施設指定管理料(香美市いんふおめーしょん) 4,400千円</p>
<p>23 広域観光の取組の推進</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>高知中央広域定住自立圏共生ビジョンの観光事業において、物部川地域の自然、観光施設、体験メニュー等の多様な観光資源を広域的に組み合わせ、魅力的な観光商品とするとともに、一体として情報発信を行うことにより、観光客の広域的な誘致を推進し、交流人口の拡大を図る。</p> <p>【高知中央広域観光協議会のうち南国市、香南市、香美市、南国市観光協会、香南市観光協会、香美市観光協会】</p>	<p>○広域観光を推進する母体となる物部川地域観光振興協議会を設立(H23～H24)した。エージェントセールス活動やモニターツアーを実施し、エージェントのニーズを全体で共有し、旅行商品化に向け旅行会社と検討を行った。</p> <p>○物部川地域観光振興協議会を発展的に解消し、高知中央広域定住自立圏構想の枠組みのもと、高知市と物部川地域(南国市・香南市・香美市)が連携し、高知中央広域観光協議会を設立(H25.5)した。広域観光パンフレットの作成やプロモーション(エージェントセールス・モニターツアー)を実施したほか、観光・物産展を開催した。</p> <p>◆1年間の取り組みを踏まえ、4市の取組を明確化したうえで、広域観光協議会の戦略の構築を図ることが急務である。</p>	<p>・実務担当者会の開催(7回)</p> <p>・高知中央広域観光協議会総会の開催</p> <p>・広域観光パンフレットの増刷(GW用1万部)及び改訂版製作</p> <p>・プロモーションツールとしてポスター製作(B1サイズ:200部、B2サイズ:400部)</p> <p>・「高知まんなか観光物産展」の開催(12/6-7)</p>
<p>24 大学生による地域応援団(サポーター)づくり</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>地域と大学等の学生の交流機会を増やし、相互の理解を深めることにより、物部川地域をサポートする「地域応援団(サポーター)」を作っていく。</p> <p>【人と地域の研究所、学生グループ】</p>	<p>○従来から開催されてきた地元住民との交流会が契機となり、高知工科大学において地域共生概念が履修科目として開設されたことにより、地域との関わりづくりが強力に推進されており、科目履修以外でも自発的に地域のイベントに参加する動きもある。また、地域と若者、特に学生をつなぐ役割を担うNPO法人「人と地域の研究所」が発足し、県から受託したふるさとインターンシップ事業において、再度参加を希望する学生や既参加学生の勧誘による参加者もあり、地域との関わりは参加学生にとっても意義あるものとなっている。</p> <p>○H24年度は、高知工科大学を中心に、学生と地域のニーズのマッチングを行い、63名の学生が地域と交流を行った。また、高知工科大学事務局と学生と地域の連携について協議し、学生の活動に対する支援を行うこととなった。</p> <p>◆地域に興味を持つ学生の確保</p> <p>◆活動内容の情報発信</p> <p>◆継続した交流への発展</p>	<p>・高知工科大学の「ココイコ!プロジェクト」(物部町神池)での活動スタート</p> <p>・物部川こども祭実行委員会が高知工科大学の「香美市盛り上げ隊」に企画段階から参加依頼</p> <p>・高知工科大学の「香美市盛り上げ隊」の代表に永野いきいき会(香北町永野)を紹介</p> <p>・高知工科大学の「香美市盛り上げ隊」の代表に豊友会(香北町佐敷)を紹介</p> <p>・高知大学の「新鮮果実音楽団Fruity」に永野いきいき会での演奏を依頼</p>
<p>25 土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化</p> <p>《香美市》</p> <p>利用可能な空き店舗の改修や商店街と地域住民、移住者等の情報交流拠点施設の整備を行うことなどにより、移住者による新規創業も含めた新たな店舗の開業を支援するとともに、商店街を含む地域の活性化を図る。</p> <p>【香美市商工会、えびす街協同組合、地域活動団体、香美市】</p>	<p>【現状】</p> <p>土佐山田えびす商店街は、他地域の商店街と同様、後継者不足や若者世代の県外流出等に伴う地区人口の減少により、空き店舗が増加し中心部の空洞化が進んでいる。そのため、「えびす昭和横丁」のイベント開催や地域アンテナショップ「ふらっと中町」の設置等により、商店街の活性化を図る取り組みを行っているが、かつての賑わいを取り戻せる状況には至っていない。</p> <p>◆店舗としては使用していないが、高齢となった元の経営者が居住している事例があり、空き店舗部分が増加する要因となっている。どのようにして、これらの空き店舗を活用し、商店街を含む地域の活性化につなげていくかが課題である。また、移住希望者に対して、地域創業を促す仕組みを整備できるかも課題となっている。</p>	<p>・産業振興推進ふるさと雇用事業費補助金 3,227,000円(県・市合算 H26当初予算)→「ふらっと中町」12名雇用</p> <p>・移住促進事業費補助金 3,400,000円(県・市合算 H26当初予算)</p> <p>・平成26年度広域振興等地域活性化事業費補助金(高知県商工会連合会からの委託事業) 700,000円</p>

アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと＞	指標・目標
<p>○香美市観光協会主催イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌で巡る史跡うおーく(4月20日)22名参加。 ・「べふ峡温泉スプリングフェスティバル・シカニクの日イベント」(4月29日)に400名以上の参加があり、体験型観光企画商品(いざなぎ舞神楽鑑賞20名、御幣切り体験11名、竹食器作り40名)への参加も得られた。 ・「香美市の街パルイベント(香美パル)」(10/31、11/1)に香美市内の飲食店26店舗が参加、400名以上の利用客があった。 ・「龍河洞キャンドルナイト」(12/23)に1400名以上の参加があった。 	<p>・「香美パル」イベントでは、市外からも多くの参加者があり、香美市の知名度アップに加えて、各店舗ともに新規の顧客獲得につながるきっかけづくりができた。</p>	<p>【指標】体験プログラム数(H23:13プログラム) 【目標(H27)]20プログラム 【H26到達点]18プログラム</p> <p>【指標】体験プログラム受け入れ人数(H23:一人) 【目標(H27)]500人 【H26到達点]2,800人</p>
<p>・「高知まんなか観光物産展」来場者数:約7万人</p>		<p>【指標】 観光客入り込み数 H21:72.1万人 H22:78.1万人 (内訳) 主要観光施設訪問者数 H21:67.5万人 H22:73万人 体験メニュー受け入れ数 H21:4.6万人 H22:5.1万人</p> <p>【目標(H27)] 80万人</p> <p>【H26到達点] 65万人</p>
<p>【実績】 交流した学生数 307名 ・高知工科大学 248名 ・高知県立大学 26名 ・高知大学 33名</p>		<p>【指標】 交流した学生数 (H23年:19名) ・高知県立大学2名 ・高知工科大学9名 ・高知大学4名 ・県外大学4名</p> <p>【目標(H27)] 累計100名以上</p> <p>【H26到達点] 180名以上</p>
<p>・地域状況調査での地域の活性化における意見交換会(キーパーソン7名参加)を実施(11月27日)、意見を反映した調査結果を香美市に提出(12月22日)</p>		<p>【指標】 新規店舗の開業数 (H26年8月25日現在 空き店舗数 32店舗(全体店舗数92、営業店舗数60)※空き店舗率 34.8%)</p> <p>【目標(H27)] 1店舗以上の開業</p> <p>【H26到達点] -</p>

